

// 統計にさよならをして明日に賭け //

7月1日、サラリーマンの総てがそうであるように、定期異動によつて、この川柳もまた好むと好まざるに係わらず、一枚の辞令によつて長い間住み馴れてきたク統計クにお別れをして新しい職場ク転勤することになった。県庁という多種多様の職種のある中での転勤は、全く違つた仕事を一年生からやり直すということになる場合が多く、何んのつながりも持たない仕事の中で毎日テンテコ舞をしている現状に追いやられた。特に年度半ばのことで他人のやつてきた仕事をそのまま引受けることではあるが、そんな中で自分の進むべき方向を見つけ出そうとしているが、非才の身果してどうなることか、しつかりせよと心に言い聞かせた次第である。

// 大過なく過した過去に悔いがあり //

後悔は先に立たずとか、社会、経済の急激な変転の過程の中に生きる近代人としては、従前のように「大過なく」という過し方ではいけないそうである。むしろ良い意味での大過ある過し方がよろしいとか。そういう意味からすれば、自分の過去……半生を捧げてきた統計 という仕事を通じて考えてみて失格というところ、こんなことになるのならあれもこれもと思うのはあとの祭りで、ただ慚愧のいたり、人間老易、学成難という実感あるのみである。

// 送らるる言葉を胸に噛みしめる //

人間の平均年令男子68才くらい。その半生、正確に数えれば通算31年3カ月を統計一本槍で進んできたこの俺が、今さら50の手習でもあるまいが人生とはままならぬもので、転勤という私の一生の転換期となつたわけである。

生れて始めて送られる身になつたが、多く人を送つた身が立場を逆にして、上司はじめ同僚のみなさん方が、多分の送別の辞をいただいわけで、送られる身として聞く数々のありがたいことばが、この永い年月をふり返つてみて果してそうであつたらうかと反省しきりであつた。

// 栄転おめでとうと人はいうけれど //

異動の社会的あいさつ「おめでとう」ということは、送られる身になつてはじめて受けたこのことばの意味をどう解釈していいやら。もちろん他人にも従来おめでとうと言つてきたわけであるが、ただそのままの身分で横すべりの現在の椅子に納まつたのだからこれを栄転だと

他人が真低から思つて言つてくれるのだろうか。栄転だとか左遷だとか他人によつて受取り方はまちまちであろうが、自身では栄転だとは思われない。ただ、このような機会を通じてマンネリ化した自分が、新しい職場で、新しい視野でものを見つめ考えていく、そういう意味での自己啓発という点ではあるいはプラスになるのではあるまいかと愚考した次第である。

// 人間の意地が寂しさかくし //

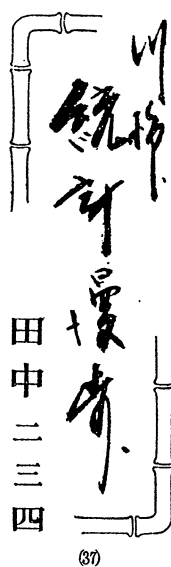
半生を過した職場のみなさんとお別れをするのは、何んもなく心残り寂しい限りである。独りでいるときは、過ぎ去つた数々の思い出が走馬燈のように悩裏を馳け巡つて当分は離れそうもない。戦前、戦中から現在まで自分も年老いたが、世の中の総てが、大きく変化し、職場環境や人の心、自分の身の廻りなどの目まぐるしい変り方の中で、若き日の佳き時代の想い出は甘く悲しく楽しいものである。その中で会つて別れた多くの人達の中には、社会的にいう偉くなつた人もあるし、あまり地位的に恵まれなれど去つた人も多い。しかし考えてみるば人間の価値なんてそういう点からばかり判断することはどうか。人間として最後に自分を見つめ人間らしい、悔いのない幸福であつたと感じられることがいいのではあるまいか。

〃 初めての異動已をためしたし 〃

会う人に、私の異動を珍らしがられる。何しろ県に奉職して28年2カ月での異動だとすれば無理のない話であろう。5年に1回づつ異動するものと考えてみても6回は動いたことになる。もつとも浅学非才のこの履歴では、他所では使いものにならないからということであつた

かも知れないが、今度の職場は「職員研修所」というところ。大勢の職員の研修事務を担当するところで、みんな学者のような人ばかり。そんな中へ、この学も無い異分子が飛び込んでいつたのだからテンテコ舞は当然である。そんなわけであるが、ここは男子、やると思えばと決意を新にして、勉強をやり直すことにしたわけである。自分が人間として欠点だらけであるだけに、研修という大きな使命を背負つてどこまでやれるか。自分の能力をためすチャンスでもあるような気もするが、当分は、自己研修を中心としてこれからの在り方を考えてみよう。

× × ×



37